

小学校家庭科における被服製作の教材

—ガーゼを用いたマスク作り—

西 敦子・安藤 愛*

Teaching Materials for Sewing in Home Economics Education at Primary Schools

—Make a mask out of gauze cloth—

NISHI Atsuko, ANDO Ai

(Received September 25, 2015)

はじめに

近年、若者の裁縫における技能低下が指摘されている。技能の低下は裁縫への興味関心と関わりがある。針と糸を使って縫う学習は、小学校5年生の家庭科から始まるが、ある小学校では学習を開始した初期の時期にすでに、苦手意識を抱く児童がいる事が報告されている(渡瀬, 2010)。それによると、「針と糸を使って縫うことが好きか」の問いに対し「どちらかといえば好きではない」「好きではない」と答えた児童を合わせると48.1%であった。「糸と針を使って縫うことの好き嫌い」と「ボタン付け、返し縫いの技能の状況」の関連については、縫う作業の好きな児童は技能きちんと習得できており、作業も早い傾向にあるが、縫う作業の嫌いな児童は技能を習得できておらず、作業も難航している傾向があった。また、裁縫への苦手意識を持つ児童は、女子よりも男子に多かった。2014年に山口大学の学生78人を対象とした調査(安藤, 2015)では、「裁縫が少し嫌い」「嫌い」「とても嫌い」と答えた学生は30%であった。渡瀬による小学生の調査と比較すると「嫌い」と回答した学生の割合が減少したように思えるが、調査対象のうち男子学生の割合が38%であったため、小学校期の調査と同様の傾向にあるといえる。また、いつから「嫌い」になったかという問いに対しそのほとんどが「小学校時代から」と答えており、そうした学生は、授業で失敗や取り残された経験を多くもつことも認められた。小学校での学習経験がその後の裁縫への興味関心に大きく影響している。

これらのことから、裁縫への興味関心や技能を高めるためには、小学校で行う最初の裁縫の授業において、児童にどのような教材と出会わせ、どのような指導を行うかが重要と考える。本稿では、男女ともに興味を引く教材の開発について考察した。

1 小学校で習得すべき基礎的・基本的技能

小学校で習得すべき裁縫の技能については、学習指導要領C快適な衣服と住まい(3)に示されている。学習指導要領解説を参考に、手縫いで小物を製作するのに必要な基礎的・基本的な技能についてまとめたものを以下に示す。

・目的に合っているか、使って便利であるか、外観はよいか考えて適切な形や大きさを決める。

* 世田谷区立等々力小学校

- ・形や大きさを決めるための計測や採寸をする。
- ・製作手順や製作計画を立て、できあがりまでの見通しを持つ。
- ・布にしるしを付ける。
- ・布を裁つ。
- ・針に糸を通し、布を合わせて縫う。糸はしには玉結びや玉どめする。
- ・なみぬい、返し縫い、かがり縫いなどの縫い方で縫う。なみ縫いは、2～3針続けて縫う。
- ・針類、はさみ類、アイロンなどの用具を安全に扱う。

2 教科書に見る既存の教材

多くの小学校が、文部科学省検定教科書2社に掲載されている教材の中から選んで、製作に当たらせていると考え、掲載されたそれぞれの教材（作品）について、布地と必要な技能について検討した。

開隆堂教科書には、17の作品例が掲載されていた（表1）。そのうち、基礎縫いの練習用と見なされるものが8例、小物製作の作品例として9例であった。小物製作の作品9例の内、材料にフェルトを使用したものは5例、平織りの布を使用したものが4例認められた。東京書籍教科書には11の作品例が掲載されていた（表2）。そのうち、基礎縫いの練習用と見なされるものは3例、小物製作の作品例が8例であった。写真に縫い方が記載されていないため、必要

表1 開隆堂教科書掲載作品例

作品例	布地	必要な技能
キノコのマスコット	フェルト	布を裁つ、玉結び
おむすびのマスコット	フェルト	布を裁つ、玉どめ
ネームプレート①	フェルト	布を裁つ、玉結び、玉どめ、ボタン付け、名前のぬいとり
ネームプレート②花	フェルト	布を裁つ、玉結び、玉どめ、ボタン付け、名前のぬいとり
ネームプレート③いちご	フェルト	布を裁つ、玉結び、玉どめ、名前のぬいとり
ネームプレート④ぞう	フェルト	布を裁つ、玉結び、玉どめ、名前のぬいとり、なみ縫い
ネームプレート⑤葉っぱ	フェルト	布を裁つ、玉結び、玉どめ、名前のぬいとり、なみ縫い
ひよこのマスコット	フェルト	布を裁つ、玉結び、玉どめ、かがり縫い
カード入れ	フェルト	布を裁つ、玉結び、玉どめ、ボタン付け、しるし付け、なみ縫い、一針返し縫い
数字のマスコット	フェルト	布を裁つ、玉結び、玉どめ、ボタン付け、しるし付け、なみ縫い
はさみケース	フェルト	布を裁つ、玉結び、玉どめ、半返し縫い
ペンケース	フェルト	布を裁つ、玉結び、玉どめ、ボタン付け、しるし付け、なみ縫い、一針返し縫い、本返し縫い
アイスクリームのマスコット	フェルト	布を裁つ、玉結び、玉どめ、ボタン付け、しるし付け、なみ縫い、一針返し縫い
ハンカチでつくるふくろ	平織りの布	布を裁つ、玉結び、玉どめ、なみ縫い、一針返し縫い
針さし	平織りの布	布を裁つ、玉結び、玉どめ、名前のぬいとり、なみ縫い
ペットボトルキャップの針さし	平織りの布	布を裁つ、玉結び、玉どめ、名前のぬいとり、なみ縫い
ティッシュペーパー入れ	平織りの布	布を裁つ、玉結び、玉どめ、しるし付け、なみ縫い、一針返し縫い

表2 東京書籍教科書掲載作品例

作品例	布地	必要な技能
キウイのワッペン	フェルト	布を裁つ、玉結び、玉どめ
洋なしのワッペン	フェルト	布を裁つ、玉結び、玉どめ
すいかのワッペン	フェルト	布を裁つ、玉結び、玉どめ
小物入れ	フェルト	布を裁つ、玉結び、玉どめ、ボタン付け、しるし付け、なみ縫い、一針返し縫い
三角定規入れ	フェルト	布を裁つ、玉結び、玉どめ、ボタン付け、しるし付け、なみ縫い、一針返し縫い
ペン入れ	フェルト	布を裁つ、玉結び、玉どめ、ボタン付け、しるし付け、なみ縫い、一針返し縫い
ポケットティッシュ入れ	フェルト	布を裁つ、玉結び、玉どめ、しるし付け、なみ縫い、一針返し縫い
マグネットの名札	フェルト	布を裁つ、玉結び、玉どめ、名前のぬいとり（本返し縫い）
名札	フェルト	布を裁つ、玉結び、玉どめ、名前のぬいとり（本返し縫い）
ヘアピン	フェルト	布を裁つ、玉結び、玉どめ、ボタン付け
ペットボトルキャップの針さし	平織りの布	布を裁つ、玉結び、玉どめ、名前のぬいとり、なみ縫い

な技能は筆者が推測した。ペットボトルキャップの針さしは、写真が小さい上、作り方が写真からは想像できにくいのが、1例と数えた。平織りの布を用いた作品例はわずかにその1例しかなく、フェルトで作品を作ることが推奨されていると理解できた。

小物製作が手縫いの基礎を学ぶ最後のまとめであると考え、製作に用いる技能は、習得すべき技能をある程度網羅することが望まれる。したがって、少なくとも、布を裁つ、玉結び、玉どめ、しるし付け、名前のぬいとり、なみ縫い、一針返し縫いを用いる作品が好ましいと考える。

一方、布地については、フェルトと平織りの布どちらかを選ぶ必要がある。開隆堂は17例中4例が平織りの布で、代々の終盤に作る作品の例として掲載されている。フェルトと平織りの布、それぞれの性質を考え、基礎縫いの練習にふさわしい素材を選択する必要がある。

3 フェルトを用いることの利点と課題

フェルトは、獣毛を広げて石鹼水などを含ませて圧力をかけ、もんだり巻いて転がしたりすることで作られたものであり、繊維に方向性がないのが特徴である。断熱、保温、クッション性に優れているので、多くの産業用や工業製品、服飾製品、絨毯、カーペットなど、幅広い分野で用いられている。

フェルトを用いることの利点として、次のことがある。作業面では、フェルトは裏表や経と緯を意識する必要がなく、ほつれないので切ったり縫ったりしやすい。ほつれを気にする必要がないため、縫う作業に専念できる。また、縫いしろをとる必要もないため、裁縫技能を身に付けたばかりの児童には、扱いやすい素材であると言える。加えて、色の種類が豊富で配色を楽しむことができるため、装飾性にも優れ、様々なデザインを施すことが可能である。このことは、児童の「早く完成させたい。」「もっと作りたい。」という製作意欲を高めることができる。

しかしながら、課題も多い。作業面では、フェルトは生地が分厚いため、ひと針ずつ縫っていく刺し縫いは可能であるが、なみ縫いがしにくい。2～3針続けて縫うには、一定以上のレベルの技術が必要である。糸目がないのでしるしを付ける作業も簡単とは言えない。糸目に沿って線を描くことができなからである。装飾性に優れているという利点は興味付けには有効であるが、反面、一步誤ると単なる工作になりがちで、玉結び、玉どめ、ボタン付けの練習には適しても、被服技能を定着させるには不適切な素材だと考える。また、引っ張りや摩擦に対する抵抗力は比較的弱いため洗濯に弱く、耐久性に優れているとは言い難い。

フェルトは特殊な生地であり、実生活で私たちが身に付けるものにフェルト生地を使用したものはほとんどなく、実生活からはかけ離れている。布製品についての理解を深めたり衣生活への関心技能を発展させたりするには、不向きであると考えられる。

4 キットを用いることによる利点と課題

小物製作において、最近では時間短縮のためや、材料の無駄が出ないように、材料、型紙、説明書のキットで購入している学校が増えている。フェルトで小物製作を行う場合も、このキットを利用している学校は少なくない。

キットの中には、型紙、必要な分だけのフェルト、作り方の書いた説明書が入っていて、児童は説明書の通りに作成すれば、全員が同じ大きさ、同じ形のを完成させることができる。どの子も同じ工程で進んでいくので製作の手順が一律となり、教師にとって指導しやすい状況になる。このことは、教師の指導負担を軽減させることになる。また、キットの中には、いく

つかの小物の中から自分の作成したいものを選択して取り組むことができるものもあるので、ある程度のアレンジが可能となり、児童の作製意欲を高めることもできると考える。このように、キットを利用することで、教育的効果を上げることが可能となる。

とはいえ、キットを用いながらも、児童に複数の製作品の中から選択させると、指導する教師は一斉の指導を行うことができない。5つの製作例があれば、5通りの指導をしなければならない。その上、児童の進度差も考慮すると、個別指導の時間が増し、教師の負担は大きくなる。

また、子どもの創造性という面からいうと、布の選択やサイズを選択ができず児童の個性が発揮されない。「私はよくポケットを利用するから、この位置にポケットをつけたら便利だ。」とか、「大きめのポケットをつけよう。」などの創造性を働かせる場面も限られてくるだろう。与えられた材料を用いて製作するだけの、いわば単調な作業になりがちである。布を選択するためにお店に出向くこともないため、他の付随する知識をつけることができない。お店に出向けば、買いに行ったもの以外のものも目に入り、布やボタン、糸の種類なども学ぶことができる。さらに、製作見本を飾っているお店であれば、「私もこんなものを作りたい。」というような製作意欲を高めることもできる。キットを用いることで、そのような機会を奪うことになるのは、残念である。

5 ガーゼを用いたマスクづくり

以上に述べた点を踏まえ、本稿では、ガーゼを用いたマスクづくりを教材として提案したい。製作するものはマスクに統一されてしまうが、マスクづくりではねらいに合った多くの事が学べると考える。もちろん、現段階では、キットも販売されていないため、ガーゼを購入し、裁つところから始めなければならない。

ところで、なぜガーゼなのか。ガーゼは、木綿の糸を使って、経糸と緯糸を交互に浮き沈みさせて織った（平織り）、目の粗い布のことである。できあがった模様は左右対称である。ガーゼは目が粗いゆえにとても通気性が良く、軽くて柔らかいので、ダブルガーゼにして使用する。肌のデリケートな人でも安心して使える。また、丈夫で摩擦に強く、吸湿性にも優れている。作業のしやすさから考えても、ガーゼは糸目が見えるので、しるしがつけやすい。場合によっては、しるしがなくてもまっすぐ縫うことができる。糸目を意識することで、布の成り立ちも学習することができる。また、生地が薄く柔らかいため、なみ縫いや返し縫いがやりやすい。何度も洗濯し、繰り返し使用することが可能である。使い捨てではなく、繰り返し使用することを定着させることで環境学習に発展させることができる。

課題は、ほつれやすかったり歪みやすかったりすることである。布地が柔らかく薄いゆえに、縫う際に困難さが生じる。しかし、実際の衣生活で使用されている多くの布製品を考えると、経糸と緯糸からなる織物の特質を学ぶことは必要不可欠である。より実践的な内容を学ぶためには、このように実生活に近い状態の布を用いることが望ましいと考える。

次に、なぜマスクなのか。第1に、マスクは学校生活での必需品であり、実用性が高く、使用する場が保障される。第2に、給食準備でほぼ毎日の使用が想定され、作ったものを使う喜びを味わえる。第3に、使用する場を共有できるので、製作したものを鑑賞し合う機会を長く設けることができる。第4に、マスクの衛生的な使用を考えると、複数を交替して使用する事が望ましいため、二つ目、三つ目の製作を促す必然性がある。そして第5に、マスク製作時に、裁断、しるしつけ、まち針をうつ、玉結び、玉どめ、なみ縫い、本返し縫い、名前の縫いとり、

アイロンがけなどの技能を繰り返し使うため、これら基礎技能の定着を確認できる。

キットを用いないため、必要量のみの布地が与えられるとは限らない。大判のガーゼを購入した場合は、布を裁つ作業から行わなければならない。しかしそれは、布を裁つ練習となる。また、型紙を使用するわけではないので、大きさを調節でき、自分の顔の大きさに合ったマスクを製作できる。さらに、各々飾りを工夫することでオリジナル性を出すこともできる。

6 マスク製作の授業計画

(1) 題材「手縫いでマスクを作ろう」設定の理由について

本題材は、多くの児童が初めて製作と出会う題材であるので、基本に忠実で縫いやすく、実用性の高い製作品にして、製作への意欲や達成感を高める展開としたい。そこで、製作するのは、フェルトではなくガーゼを用いて作るマスクと、さらしを用いて作るマスクケースとする。ガーゼはほつれやすい、ゆがみやすいという難点はあるが、目が粗く針の運びが簡単である。また、平織りの代表的布地で、布地の構成を学ぶ際の基本であることや、実生活の中でも平織りの布地が多く用いられていることなどを考えると、フェルトのような方向性のない布地に比べて、この時期の児童にふさわしい素材であると言える。また、マスクは必ず全員が学校生活の中で使うものであるため、児童の生活に活かすことができる。「作ったものを使う」ことは、「生活をよりよくするために考え工夫して、得たことを生活に活かす」という家庭科の本質的な目標を達成するための方法の一つであり、その意味からも、こうした題材構成は意味がある。

マスクの製作過程では、玉結び、玉どめ、なみ縫い、本返し縫いを取り入れている。また、マスクケースの製作過程ではボタン付け、名前の縫い取りを取り入れている。このように、製作過程で必ず手縫いの基礎技能を練習できるような教材を取り入れて指導する。

(2) 目標

- 手縫いに関心をもち、なみ縫い、返し縫い、かがり縫いなどやボタン付けができる。
- 製作に必要な用具について知り、安全に取り扱うことができる。

(3) 指導計画

手縫いを学ぼう！・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 6 時間

ものの製作にチャレンジ！・・・・・・・・・・・・ 3 時間

(4) 学習計画

時	学習活動	ねらい	裁縫の基礎技術
1	裁縫道具の学習 針に糸を通す	・手縫いに関心をもち、取り組もうとする。 ・針と糸の使い方がわかる。	・糸通し
2	玉結び・玉どめ	・針と糸を使って玉結びや玉どめができる。	・玉結び ・玉どめ
3	文字の縫い取り	・用具を安全に使って文字の縫い取りができる。	・縫い取り
4	ボタン付け	・ボタンをつけることができる。	・ボタン付け
5	なみ縫い 本返し縫い	・なみ縫い、本返し縫いについて理解し、実践することができる。	・なみ縫い ・本返し縫い
6	半返し縫い かがり縫い	・半返し縫い、かがり縫いについて理解し、実践することができる。	・半返し縫い ・かがり縫い
7	マスクづくり	・製作の手順や、製作に必要な材料、道具を把握し、製作に対する見通しをもつ。 ・裁ちばさみを用いて布を裁つことができる。	・裁断
8			・しるし付け
9			・アイロンがけ

	<ul style="list-style-type: none"> ・チャコペンを用いてしるしをつけることができる。 ・アイロンを安全に使うことができる。 ・学習済みの縫い方を用いて、マスクを製作することができる。 ・友達と関わりながら、製作を進めることができる。 ・友達の作品の良さに気付くことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・まち針をうつ ・手縫いの基礎縫い ・ゴム通し
--	---	---

<材料の見積もり（1人分）>

材料	個数
ガーゼ	21cm×21cm
マスクフィルター用不織布	9cm×10cm
マスクゴム	48cm（24cm×2本）
糸	手縫い糸60m巻1つ

<用具>

裁縫道具（手縫い用針、まち針、手縫い糸、チャコペン、裁ちばさみ、糸切りばさみ、針山）
 ゴム通し、30cmものさし、アイロン、アイロン台

<評価>

- ・手縫いに関心をもち、材料や用具等を準備し、製作しようとしている。
- ・作品を考えたり、形や大きさ、縫い方を工夫したりしている。
- ・なみ縫い、返し縫い、かがり縫いなどやボタン付けができる。
- ・必要な用具の安全な取り扱いについて理解している。
- ・なみ縫い、返し縫い、かがり縫いなどの縫い方について理解している。

7 マスクの作り方

<1 布に裁ち切り線のしるしをつけ（図1）裁断する（図2）>

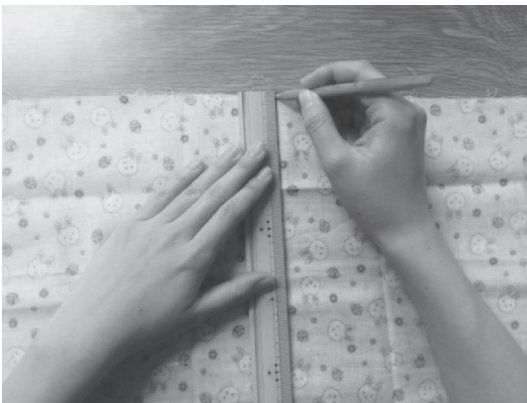


図1

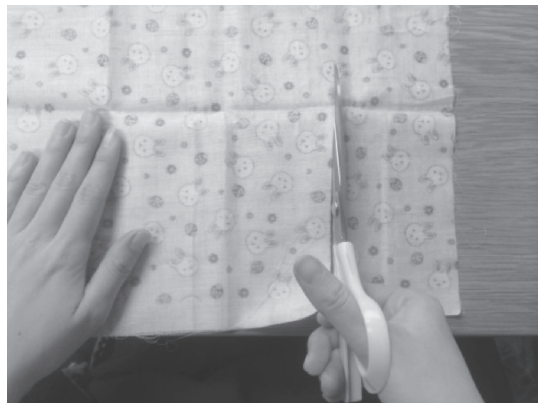


図2

< 2 寸法通りにしるしをつけ (図3)、タックをたたむ (図4) >

本来、チャコペンでしるしをつけるのは裏地であるが、ここではタックのたたみやすさを優先し、表地にしるしをつけることとする。目立たぬように、両端5mm程度にしるしをつけるようにし、そのしるしを目印に折りたたんでいく。点線を山折りにし、山折りした部分が一点鎖線に重なるようにたたむ。

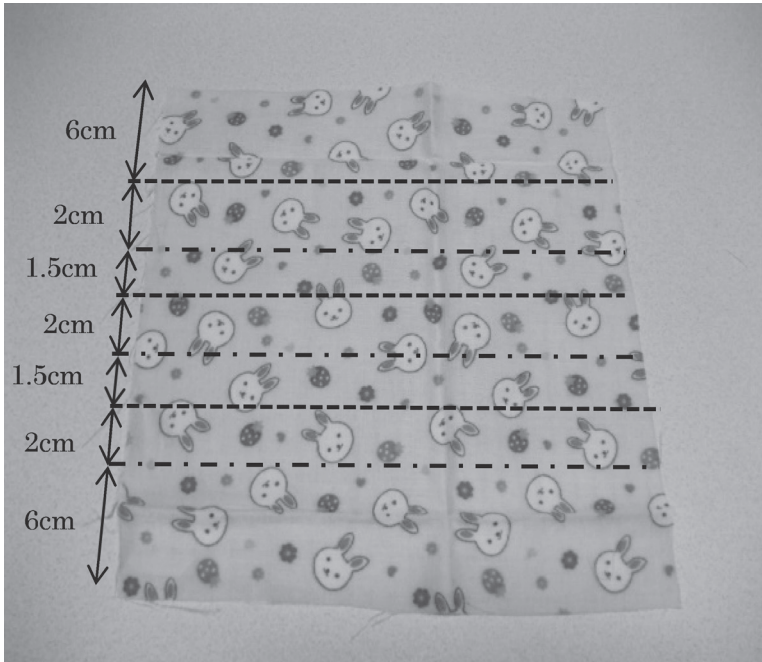


図3

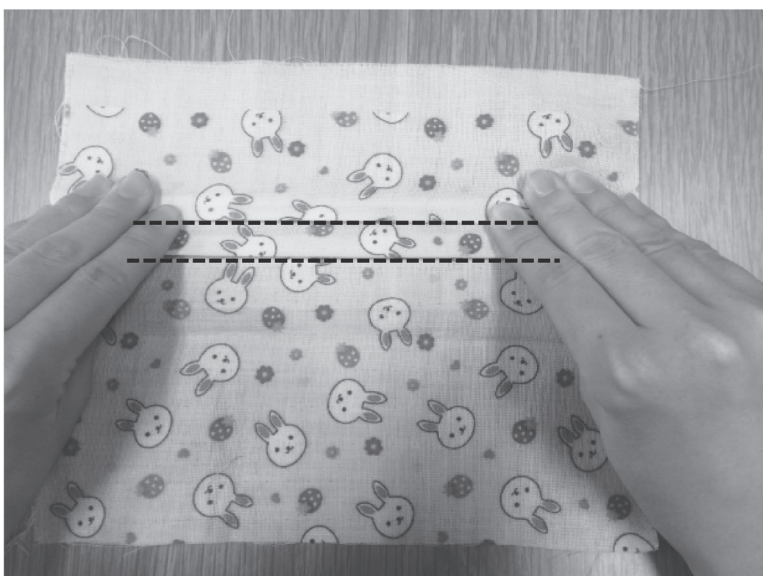


図4

< 3 アイロンをかけて型をつけ (図5)、タックを固定する (図6) >

上から押さえるようにアイロンをかけ、タックの両脇を3cmずつなみ縫いして固定する。

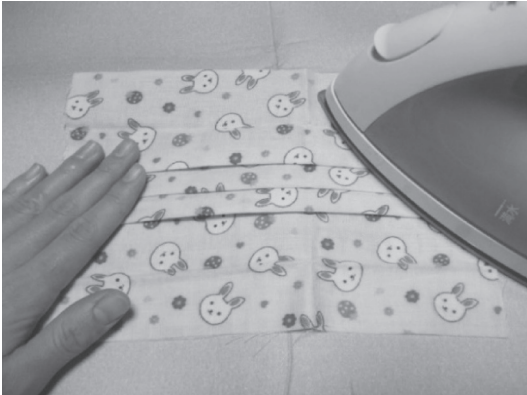


図5

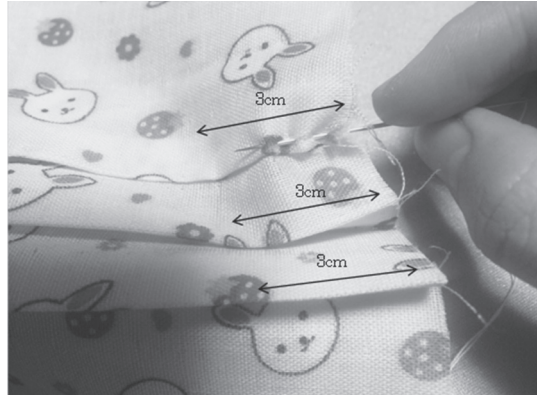


図6

< 4 上下を三つ折りにし (図7) アイロンで押さえ (図8) なみ縫いする (図9) >

上下を1cm折ってアイロンをかけ、さらに1cm折りアイロンをかけて縫う。この時、なるべく内側を縫うことで三つ折りがしっかり固定される。

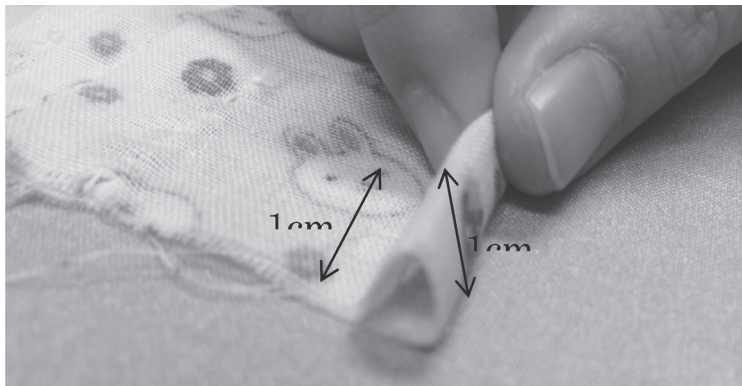


図7



図5

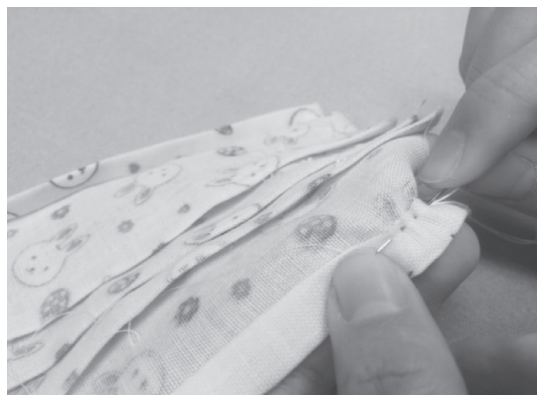


図6

< 5 上下を2cm裏面に折り、まち針をうつ (図10) >

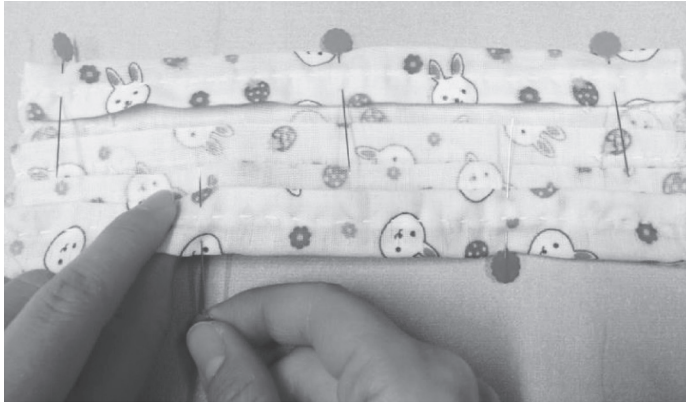


図10

< 6 両端を三つ折りにし (図11)、まち針をうつ (図12) >

両端を1cmに折り、さらに1.5cmに折って三つ折りにした後まちばりで固定する。

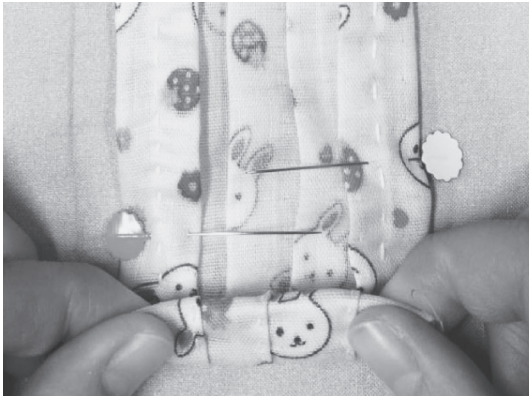


図11

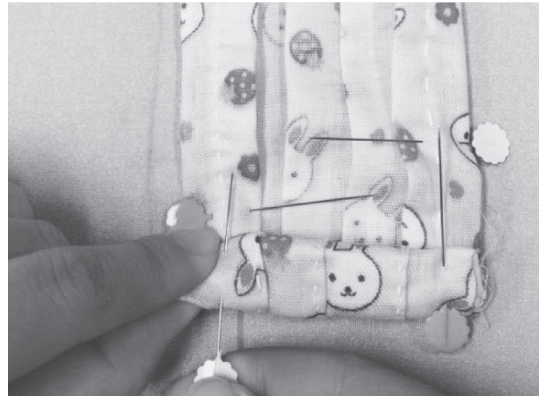


図12

< 7 三つ折りした両サイドを縫う (図13) >

端から1cm~1.2cmのところを目安に縫う。



図13

< 8 24cmのゴムを両端のひも通しに通し (図14)、結ぶ (図15) >
ゴムを通して結んだあとは、ひも通しの中に結び目を引き入れる。



図14

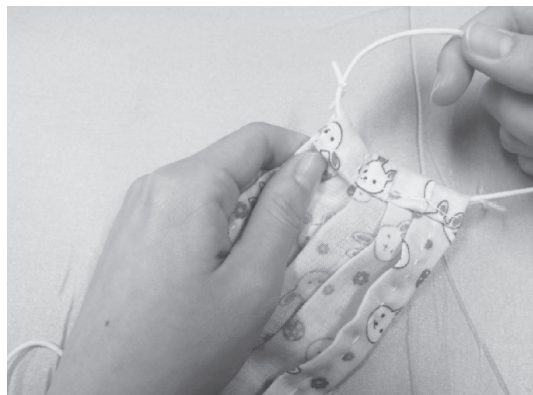


図15

< 9 マスクフィルター用不織布を切って (図16)、ポケット部分に挟む (図17) >

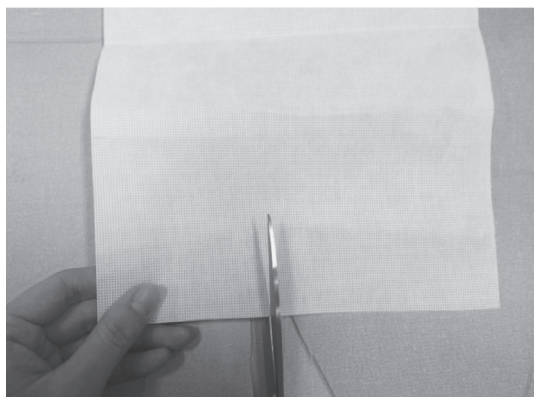


図16

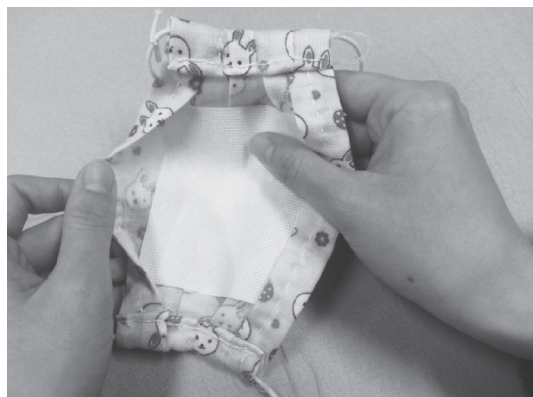


図17

< 10 完成 >

表 (図18)、裏 (図19)



図18



図19

以上、マスクの作り方を10の行程で示した。この行程の中には、基礎的・基本的技能であるボタン付けと名前の縫いとりが含まれていない。マスクにボタンは不要であるためである。1で示した基礎的・基本的な技能を全て取り入れるとするなら、マスクを収納するマスクケースを製作し、マスクケースにボタン付けと名前の縫いとりをすることが提案できる。また、タックの数を少なくすることで難易度を下げることができる。タックは1本または2本でもよい。今後は、実践化に向け、指導方法についても吟味していく。

文献

- 渡瀬典子 2010 「東北家庭科教育研究No.9」 小学校家庭科における被服製作技術の育成
—「ボタンつけ」、「返し縫い」に着目して—
- 内野紀子 鳴海多恵子 石井克江ほか 2015「小学校 わたしたちの家庭科5・6」文部科学省検定済教科書 開隆堂出版
- 渡邊彩子監修 2015「新編 新しい家庭5・6」文部科学省検定済教科書 東京書籍
- 文部科学省 2012「小学校学習指導要領解説 家庭編」 東洋館出版社

参考資料

- 藤久株式会社「ダブルガーゼで作るかわいいマスク 子供用」寸法図
- 藤久株式会社「タックが入ったかわいいマスク 子供用」寸法図